

通学路のロードキルマップ

江戸取学園取手中学校 1年 濱崎新



きっかけ

私はつくばみどりのの自宅から、車でつくばみらい市を経由し取手市の学校へ通学することになった。入学してすぐに緑豊かな道路沿いでロードキルされた野生動物を発見した。茨城県は里山や田園が多くたくさん野生動物が生息していると思うので、不幸にもロードキルにあった動物がどんな場所かで、どんな時期に事故が起こっているのか分ければ、ロードキルが少しでも減少するのではないかと考え調査を行った。

調査方法：

通学及び自宅の近隣で発見したロードキルを地図に記録する。道路もしくは道路脇にある動物の死体を、ロードキルによるものであるとした。走行中の車内から目視により探した。可能なものについては車が降りて死体を確認した。動物の種類は死体の見た目から判断した。状態が悪く種類を判別できなかった個体については「不明」とした。

期間：4月6日～8月14日（夏休み期間中もほぼ毎日観測を行った）

時間：午前7時から午前8時頃

ロードキルとは？

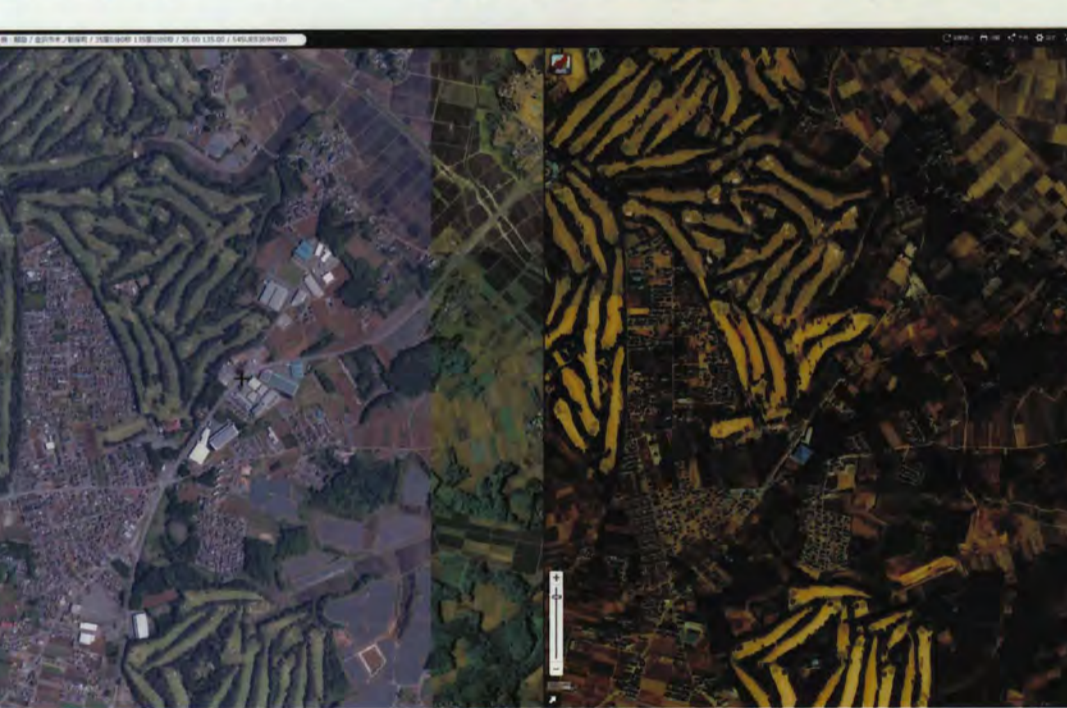
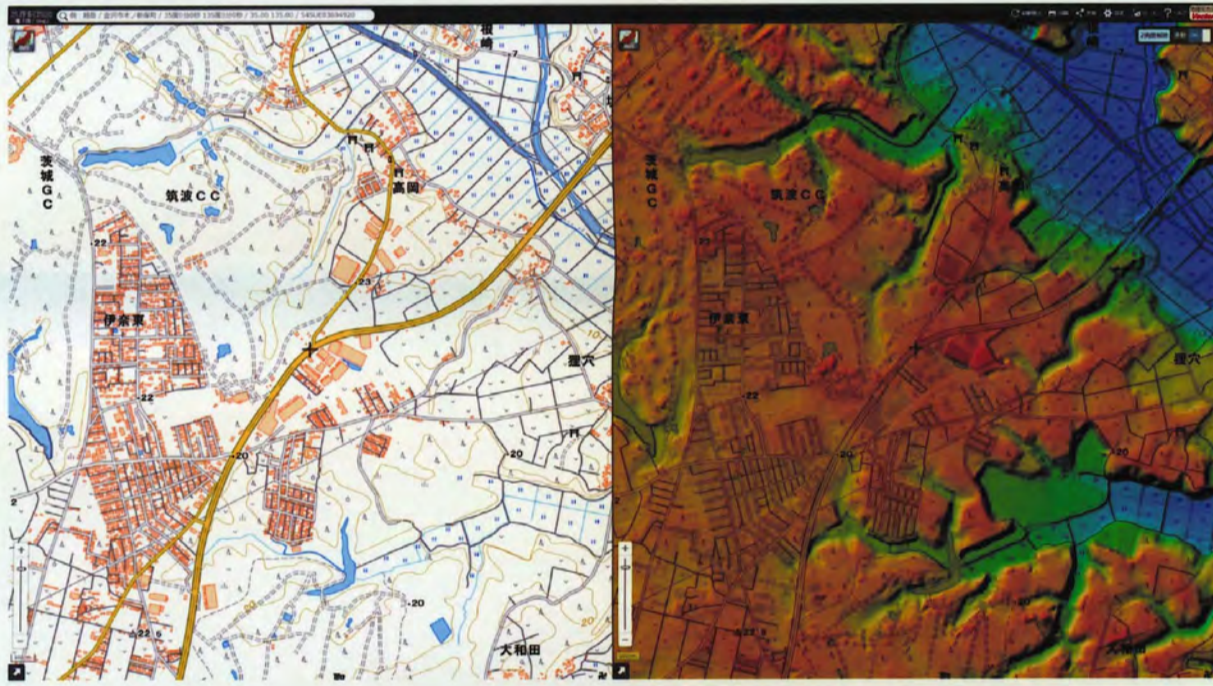
ロードキルとは、野生動物が道路で車によって轢かれて死んでしまうことである。ロードキルは「野生動物が死んでしまっても可哀想」というだけで済ませてしまえばいい問題ではないと思う。日本では、1996年の高速道路のロードキルは2万5000件あり、ロードキルは、身近な動物だけではなく、希少な動物にも被害を及ぼしており、沖縄県のアマミノクロウサギの交通事故死（主にロードキルとみられる）は環境省の調査によると2022年の奄美大島の死亡の半数以上を占めている。

ロードキルは人間にも被害をもたらす。例えば動物が飛び出してきて、それを避けようとしてハンドル操作を誤り死亡事故につながるということが起きている。北海道では2018年に2430件のエンジンカとの衝突事故が発生しており、これらの事故による総保険支払金額は13億6625万円に達するそうだ。大型動物との事故だけでなく、小型動物だったとしても自動車本体の損傷もある。このように、ロードキルは野生動物と人間双方に不幸をもたらす。

ポイント②③：狸穴（まみあな）近辺

②でホンドギツネとタヌキ、③でハクビシンとイタチのロードキルを発見した。ここは4車線道路で車のスピードも速い。2021年と1984年の航空写真を比べると、この40年で道路が広がったことがわかる。道路を挟んで北と南それぞれに森が残っているため、野生動物のロードキルが多いのではないかと考えた。

土地の名前に注目すると「狸穴」という地名で、古くからのタヌキの生息地なのかもしれない。なお、南に見えるのはゴルフ場である。

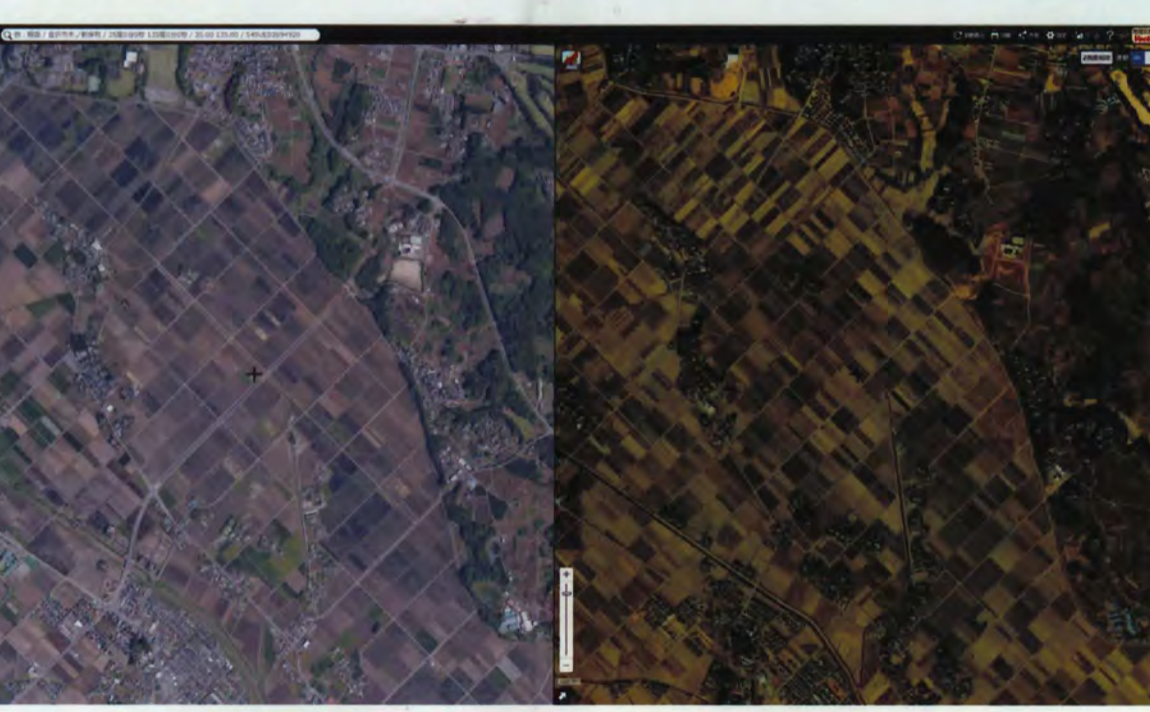
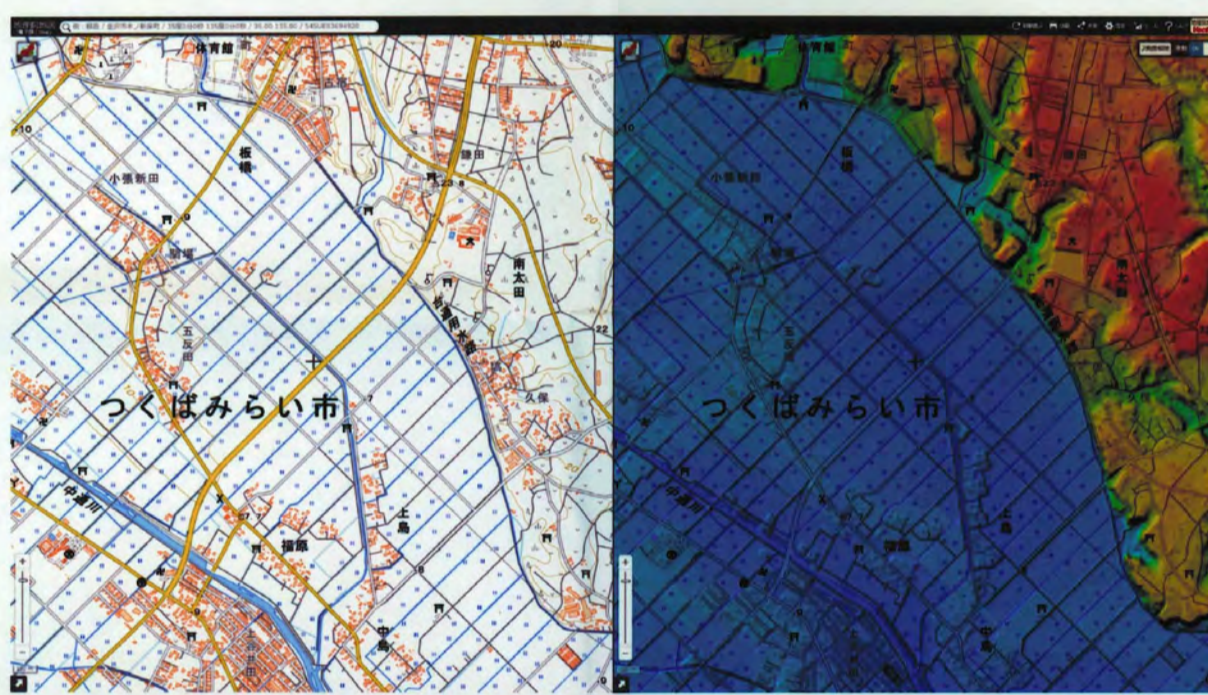


上段左が標準地図、右が色別標高図。下段左が2021年、右が1984年の航空写真。いずれの地図も国土地理院の電子国土Webを利用して作成。

ポイント④：新道・取手つくば線

④で亀2匹と不明1匹のロードキルを発見した。ここは2023年7月12日に開通した取手つくば線である。開通初日に亀のロードキルを発見した。道路の両脇は田んぼのため、そこを住処にしていたのではないかと考えた。

田んぼに狭まれた道路は他にたくさんあるが、亀のロードキルを見かけたのはここだけだった。これまでは安全に横断できたのに道路が開通して危険な場所へ変わってしまったが、それに対応できなかったのではと考えた。

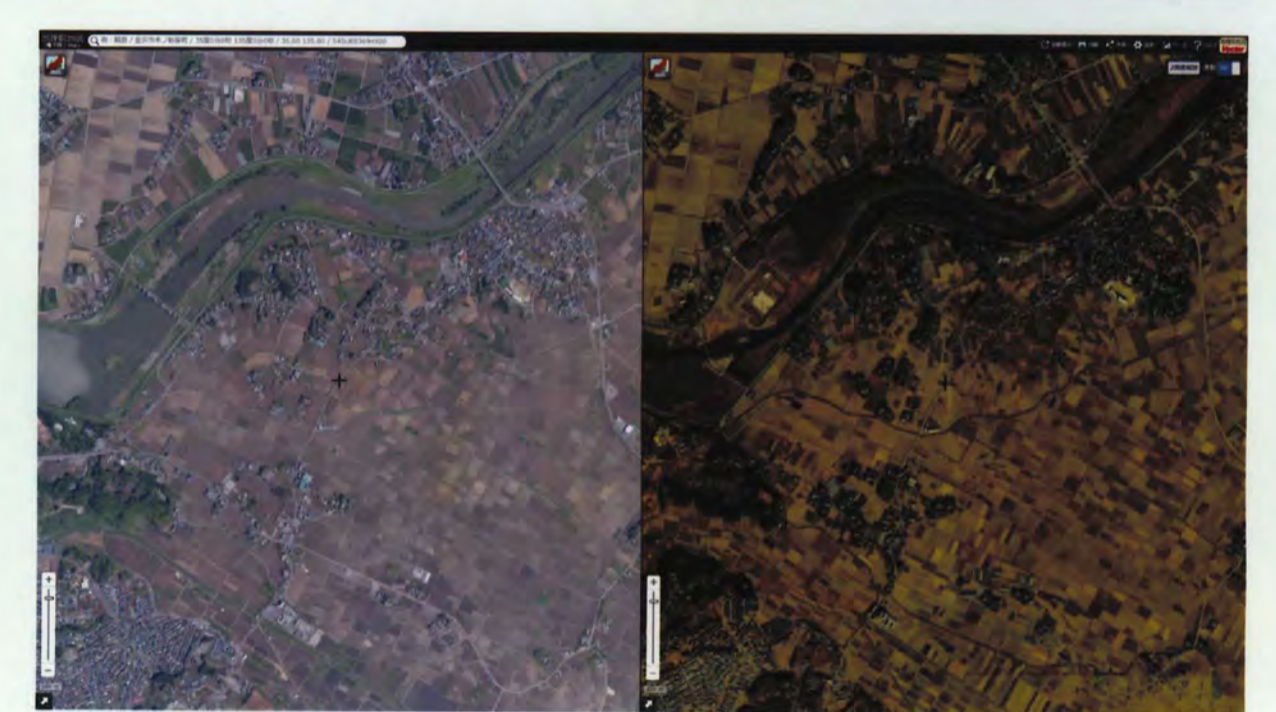
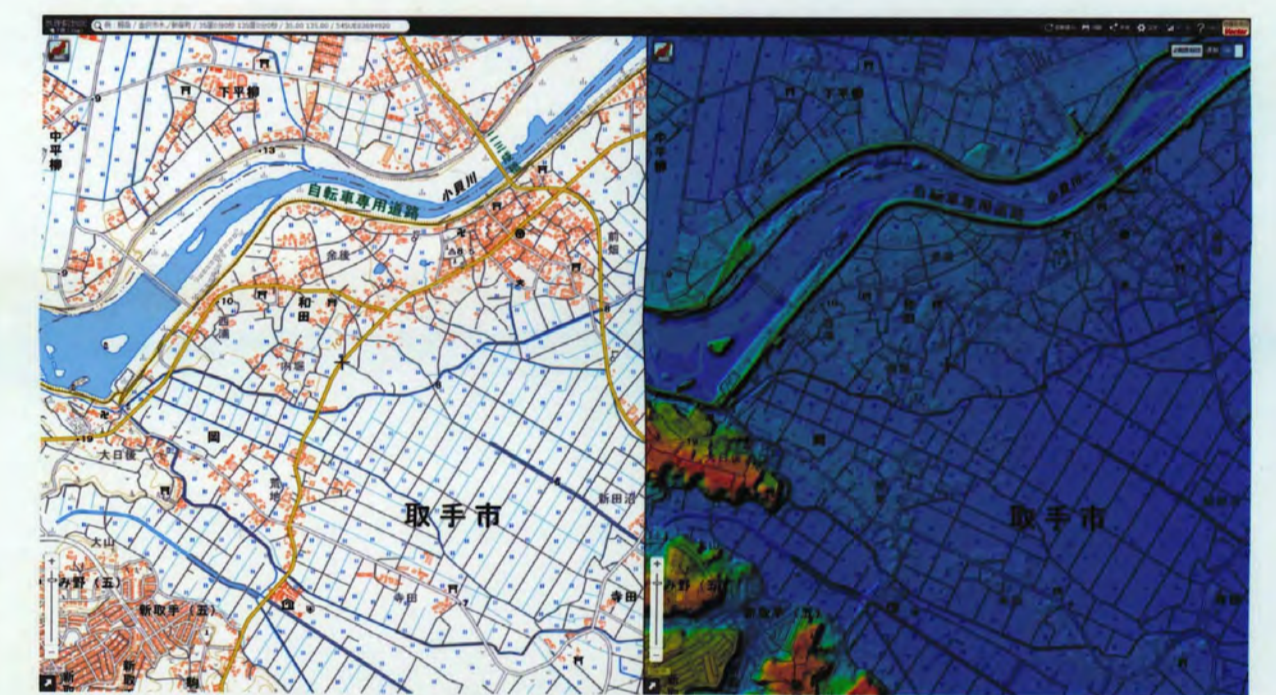


上段左が標準地図、右が色別標高図。下段左が2021年、右が1984年の航空写真。いずれの地図も国土地理院の電子国土Webを利用して作成。

ポイント⑧⑨：取手市和田

⑧でアライグマを二匹、⑨で鳥を二匹発見した。近くに森はないが、庭に果樹を植えている住宅を見つけた。これがアライグマの餌になるのではと考えた。1984年と2021年の航空写真を比べても、住宅はあまり増えている様子はない。

道路の両脇は田んぼが広がっていた。田んぼにいた鳥が、高度を出さないまま道路に飛び込んで車と衝突してしまったのではないかと考えた。



上段左が標準地図、右が色別標高図。下段左が2021年、右が1984年の航空写真。いずれの地図も国土地理院の電子国土Webを利用して作成。

ロードキルを発見した動物について

ネコ 多くはタヌキやアライグマより小さく、体重は2～7kgのものが多い。鋭いかぎつめと牙を持つ。頭部は丸みを帯びている。

タヌキ 体長は4,50cm、体系はキツネに比べて丸みがあり、主に里山や藪の中で生息している。主に夜行性で食性は雑食。生ごみからへびまでなんでも食べる。若い成獣などがロードキルに多い。

ハクビシン 外来種。体長は5,70cm。タヌキと同じく夜行性。木登りが得意で、樹洞やタヌキが使い古した巣穴を住処にする。また、民家の床下や屋根裏に住むこともある。顔から鼻にかけて白い筋がある個体が多い。

ホンドギツネ 赤みがかったキツネ色をしており、尾の先や腹部は白い。森林に生息しており、肉食が強い雑食性の動物。近年は開発が進んだことなどにより数を減らしている。北海道に生息するキタキツネとは別種。

アライグマ ハクビシンと同じく外来種。森林や湿地、都市部など様々な場所に生息する。タヌキとの違いは、尾に縞模様があるものがアライグマで、ないものがタヌキ。

イタチ 多くは二ホンイタチを指す。オスとメスで大きさが違いオスは2,37cm、メスは16から25cm。昼夜活動する。

二ホンノウサギ 草原や森林に生息する。夜行性で、昼間は藪や木の根元で過ごす。食性は植物性。前身は褐色で腹部は白い。

ヤマカガシ 全長は60から120cm。体色は地域差があり、関東地方のヤマカガシは対側面に赤色と黄色の文様が交互にある。頭の下は黄色い。カエルやカナヘビ、ドジョウを食べ、水辺を好む。

考察

周辺環境について：

- 森と水辺（川）があるところに事故が多い。森、川が近くにあるとその周辺又はその森の中などに住処を作りやすいと考えられる。
- 道路を挟んで水田が広がっている場所では、飛び立った直線の飛行の高度が低い鳥のバードストライク、横断しようとした亀のロードキルが多い

時期について：

- 7月前半は特に発見が多く、若い個体が多かった。
- 7月後半から8月にかけてはロードキルが少なかった。
- 4月から7月は、若い個体が多いのかもしれないと考えた。

道路について：

- 守谷のTX沿いの道路では柵が用意されており、また高架では野生動物が侵入できないので、ロードキルは目撃しなかった。
- 県道19号線はつくばからつくばみらいにかけて両側に森やゴルフ場があり、野生動物が多く生息するためロードキルが多い。



結論

4月6日から8月14日までの観測で合計17匹のロードキルを確認した。特に7月にやや野生動物の事故が増えているように見られる。秋から冬にかけては、冬を越すためにたくさんの餌を求めて動物たちの行動が変化すると予想されるため、今後も注意深く観察を続ける必要がある。私はこの観察を行うことで、どの道路にどんな野生動物が多く事故にあっているかを記録し、そのデータをもとに少しでもロードキルを削減する取り組みに役立ちたいと考える。

今回本を読んだり他県や海外では動物だけの高架やバスウェイを作る取り組みも学んだ。

今回の調査では県道19号線の事故を多く発見し、ここは対策ができるのではないかと考える。普段この道路を走り慣れているドライバーでも、まさか野生動物が飛び出すと認識している人は少ないのではないかと。そこで、例えば動物が出ることを示す注意喚起の看板を用意してドライバーがロードキルに対して事前に注意を払ったりすることができれば人間にとっても、野生動物にとっても事故の可能性が減り、双方安心して暮らせる街づくりの一環になるのではないかと考えた。

参考文献

- 国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/> (2023.8.19)
- 柳川久 監修 塚田英明、園田海一編 (2023) 「野生動物のロードキル」 東京大学出版会
- 佐伯謙 (2022) 「What is Tanuki?」 東京大学出版会
- 高橋成紀 (2023) 「都市のくらしと野生動物の未来」 岩波ジュニア新書
- 人と動物の共生センター <https://human-animal.jp/activity/suney4189.html> (2023.8.19)
- 環境省 https://kyushu.env.go.jp/okinawa/press_00045.html (2023.8.19)
- Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/> (2023.8.19)

謝辞

今回地図制作にあたり、アドバイスくれた父と毎日の観察に早朝から同行してくれた母に感謝します。また、投稿するにはタヌキをはじめ多くの野生動物の生息についてご助言を頂きました。本当にありがとうございました。